

令和5年度 大分県学力定着状況調査

臼杵市の結果の受け止め
(分析および今後の取組み)

臼杵市教育委員会

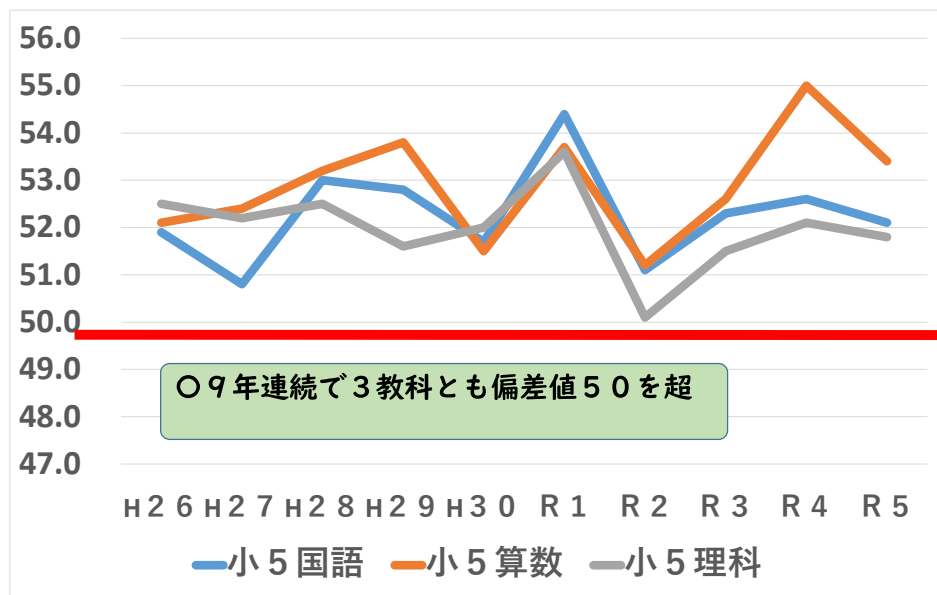
白杵市の偏差値の推移（平成26年度～令和5年度） 小学校

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
小5国語	51.9	50.8	53.0	52.8	51.7	54.4	51.1	52.3	52.6	52.1
小5算数	52.1	52.4	53.2	53.8	51.5	53.7	51.2	52.6	55.0	53.4
小5理科	52.5	52.2	52.5	51.6	52.0	53.6	50.1	51.5	52.1	51.8

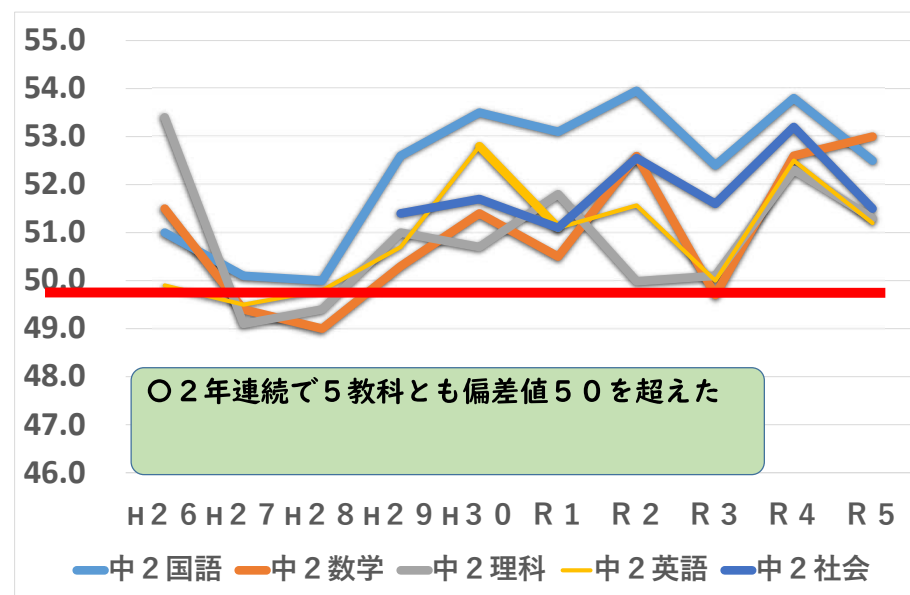
白杵市の偏差値の推移（平成26年度～令和5年度） 中学校

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
中2国語	51.0	50.1	50.0	52.6	53.5	53.1	54.0	52.4	53.8	52.5
中2数学	51.5	49.4	49.0	50.3	51.4	50.5	52.6	49.7	52.6	53
中2理科	53.4	49.1	49.4	51.0	50.7	51.8	50.0	50.1	52.3	51.3
中2英語	49.9	49.5	49.8	50.7	52.8	51.1	51.6	50.0	52.5	51.2
中2社会				51.4	51.7	51.1	52.6	51.6	53.2	51.5

白杵市の偏差値の推移グラフ（平成26年度～令和5年度） 小学校

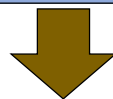


白杵市の偏差値の推移グラフ（平成26年度～令和5年度） 中学校



同一集団の経年比較データ (R2小5 → R5中2)

R2 (小5)	国語			算数			理科		
	合計	知識	活用	合計	知識	活用	合計	知識	活用
白杵市平均	51.1	50.8	51.3	51.2	51.2	51.2	50.1	50.6	49.4
大分県平均 (市町村立学校)	51.8	51.9	51.6	51.9	52.1	51.2	50.7	50.9	50.3
県との差	- 0.7	- 0.9	- 0.3	- 0.7	- 0.9	- 0.1	- 0.6	- 0.3	- 0.9



R5 (中2)	国語			数学			理科		
	合計	知識	活用	合計	知識	活用	合計	知識	活用
白杵市平均	52.5	52.3	52.3	53.0	53.3	51.7	51.3	51.6	50.2
大分県平均 (市町村立学校)	51.8	51.8	51.5	50.9	51.0	50.4	50.8	51.1	49.7
県との差	+ 0.7	+ 0.5	+ 0.8	+ 2.1	+ 2.3	+ 1.3	+ 0.5	+ 0.5	+ 0.5

小学校5年 (R2) ⇒ 中学校2年 (R5) の変化

	国語			算数・数学			理科		
	合計	知識	活用	合計	知識	活用	合計	知識	活用
偏差値の差 (3年間の経年変化)	+ 1.4	+ 1.5	+ 1.0	+ 1.8	+ 2.1	+ 0.5	+ 1.2	+ 1.0	+ 0.8
県との差 (3年間の経年変化)	+ 1.4	+ 1.4	+ 1.1	+ 3.0	+ 3.2	+ 1.4	+ 1.1	+ 0.8	+ 1.4

令和5年度 大分県学力定着状況調査 小学校 国語

1. 結果の概要

	合計	知識	活用
臼杵市 (偏差値)	52.1	51.9	52
大分県 (偏差値)	51.3	51.1	51.2

2. 学びの成果が見られる枝間 (目標値に対して+10ポイント以上)

○【大問3-(4)】	ことわざの意味を知り、正しく使っている。(+18.2)
○【大問3-(5)】	漢字辞典の使い方を理解している。(+20.2)
○【大問4-(1)】	登場人物の気持ちについて、叙述をもとに捉えている。(+14.0)
○【大問5-(3)】	情報と情報との関係について理解し、中心となる語を見つけて要約している。(+15.6)
○【大問7】	文章を書く。(指定された長さで文章を書いている)(+13.5) (段落の役割を理解し、2段落構成で文章を書いている。(+16.4) (内容の中心を明確にし、自分の考えを伝える文章を書いている。(+11.0) (内容の中心を明確にし、自分お考えの理由や具体的な事例を書いている。(+21.1)

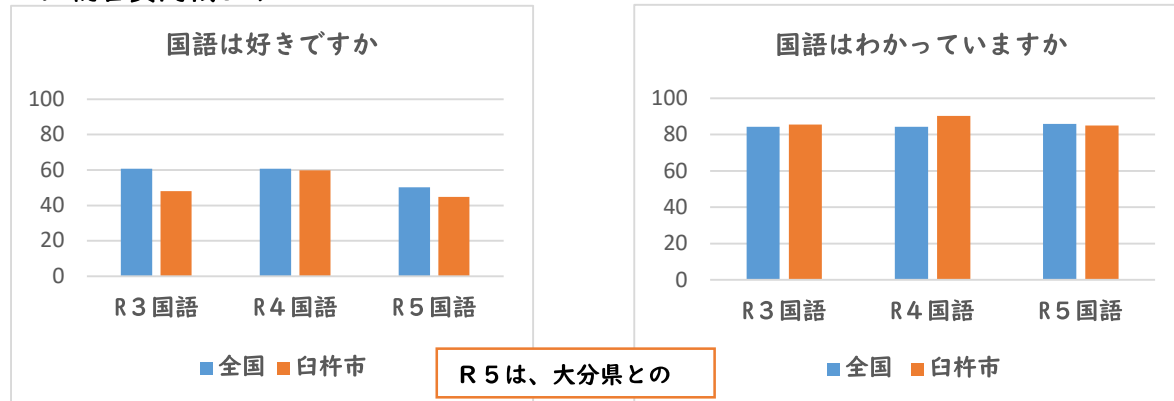
3. ①課題の見られる枝間 (目標値に対して-5ポイント以上)

○【大問1-(3)】	司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して考えをまとめている。(-7.4)
○【大問2-(2)】	第4学年に配当されている漢字を正しく書いている。①希望(-14)②鏡(-8.8)
○【大問3-(2)】	連用修飾語について理解している。(-)
○【大問4-(2)】	登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像している。(-6.5)
○【大問5-(2)】	叙述をもとに段落相互の関係を捉えている。(-5.8)

②課題の見られる枝間 (正答率が50%以下の問題)

○【大問1-(3)】	司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して考えをまとめている。(正答率34.6)
○【大問3-(2)】	連用修飾語について理解している。(正答率23.2)
○【大問6-(2)】	情報と情報との関係について理解し、書き表し方を工夫している。(正答率45.5)

4. 総合質問紙より



5. 調査結果をふまえた授業改善のポイント

○【大問2-(2)①】

問題の内容	出題のねらい	目標値	臼杵市正答率	県正答率	全国正答率
漢字を書く(希望)	第4学年の配当漢字を書くことができる	75	61	70.9	63.5

(解答累計)

(考察)

正答	61
上記以外の解答	33.7
無解答	5.3

「希望」の漢字の書きの大分県の正答率は70.9であったのに対して、臼杵市の正答率は61であり、-9.9であった。

○【大問2-(2)②】

問題の内容	出題のねらい	目標値	臼杵市正答率	県正答率	全国正答率
漢字を書く(鏡)	第4学年の配当漢字を書くことができる	60	51.2	61	59

(解答累計) 「鏡」

(考察)

正答	51.2
上記以外の解答	36.2
無解答	12.6

「鏡」の漢字の書きの大分県の正答率は61であったのに対して、市の正答率は51.2であり、-9.8であった。全問題で無回答率が一番高く、12.6であった。

○【大問3 - (2)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白河市正答率	県正答率	全国正答率
言葉の学習	連用修飾語について理解している	40	23.2	16	12.8

- 3 1 学校の
海が 2 青い
4 見える

学校の三階から、青い海が見える。

(2) 次の文の「三階から」は、どの言葉をくわしく説明(修飾)していますか。あとから一つ選んで、その番号を書きましよう。

(解答累計)	
1	61.8
2	3.7
3	11.4
4	23.2

(考察)

連用修飾語を問う問題で、正答率は23.2である。昨年度も26.6と正答率が低かった。61.8の誤答が①の「学校の」を選択している。これは、連体修飾語を求める(1)の問題が「すべり台が」を詳しくしている言葉(修飾語)を選びなさいで、正答は「長い」である。(正答率は67.1) (2)は、「三階から」はどの言葉を詳しく説明(修飾)していますかと問われているので、正答は④の「見える」である。(1)の問題と問われていることを混同したため、①の「学校の」を選択したものと思われる。問われていることをしっかりと読む必要がある。

○【大問4 - (2)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白河市正答率	県正答率	全国正答率
物語の内容を読み取る	登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像している。	85	78.5	80.4	84.4

4 次の文章を読んで、下の問題に答えましよう。

心愛と、同級生のジンは、オオミズアオという大きな虫を見つけた。心愛は、同級生の大輝が、自分がかつていたヘラクレスオオカブトよりも大きな虫を持ってきてみるかと誘っていたことを思い出した。

ジンは虫取りあみを持ってきている。この木のみにサツとおおつたら、きつとつかまえられる。ガのほうがかブトムシよりも大きいなんて、おそろく大輝は考えてもいない。あおいばつた顔が、キョトンとなるほど心愛は見てみたかった。

でも、ジンは動かなかった。

「ひまようだな。これ十二センチくらいだと思うんだけど、ヘラクレスオオカブトってだぶん十四センチはある。」

「大輝が持っているのが小さいのカブトって可能性もあるかもよ。」

「そうだとってもさ。」

「うん……そうだね。」

「かまえたなら、かわいそうだよ。オオミズアオってさ、口がないんだよ。」

「え？」

「口が退化してて、成虫になったら、死ぬまで何にも食べないんだ。」

「ど、どうして？」

「オオミズアオをさがす。パートナーを見つける。ただそれだけのために生きるんだ。うー、ロマンチック。」

「こんな大きな虫なのに何も食べないで何日生きられるの？」

「一週間から十日くらいだ。」

「そんな……」

頭モフモフの天女が、そんなきびしい運命のもとで生きているなんて、心愛には想像もつかなかった。

「だからさ、おれが今日持って帰って、明日学校に連れてって……そんなことする間に、こいつのたいじな時間をばつちやう。」

「うん……そうだね。」

「だから、ここに置いて。」

「分かった。」

じつとオオミズアオを見つめているジンのひたいから、あせが流れている。

今までジンのことを、変わり者だと心愛は思っていた。チョウよりガが好きという人にはあまり関わりがなかった。

でも、少し見方が変わった。ジンが見ている世界は、自分が見ている世界よりもっと広い。

(吉野理子「海をこえて虫フレン」より)

※注 1 退化：小さくなくなったり、なくなったりすること。
2 頭モフモフの天女：心愛は、オオミズアオを見て、天女(天に住むといわれる人のようにきれいだと思つた。「頭モフモフ」は、ガの頭のふわふわした様子のこと。

① ジンは動かなかったとありますが、ジンがオオミズアオをつかまえたのはなぜですか。次から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 成虫になったら死ぬまで何も食べず、命の短いオオミズアオがかわいそうだったから。
- 大輝の持っているカブトムシより小さかったら、心愛がつかりすぎるだろうと思ったから。
- 大輝の持っているカブトムシより確実に大きいといえないかぎり、つかまえる価値がないから。
- 虫取りあみがあるので、オオミズアオをつかまえるのはかたんずきで、おもしろくないから。

② 「きびしい運命」を知る前後で、心愛の気持ちはどのように変わりましたか。次から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- オオミズアオをつかまえて大輝にあげようと思ったが、自分だけのものにしたかった。
- オオミズアオを大輝に見せておどろかせたいと思ったが、とるのをやめようと思った。
- オオミズアオをジンにつかまえてほしいと思ったが、自分の手をつかまえないと思った。
- オオミズアオについてジンに教えてほしいと思ったが、もう何も知りたくないと思った。

③ 上の文章を読んで山本さんと石川さんが、次から一つ選んで、その番号を書きましよう。

山本「心愛はジンを、チョウよりもガが好きなのわり者だと思つてたけれど、生き物思いやるやさしさがあると知って、見方が変わったんだね。」

石川「そうだね。ジンのやさしい一面に気づいたのだらうね。それに、心愛はジンを、人だと感じ始めたことが読み取れるよ。」

- 自分の好きなことに対しては、周りの人がどう思おうとも、全く気にしないで熱中する。
- 決まて変わり者ではなく、ふつうの虫好きな子とでも、自分と同じような感覚をもっている。
- いろいろなことを知つていて、自分には気づけないようなことにも目を向けることができる。
- ふだんはあまり目立たないけれども、ガのことになると、はりきつて調子に乗りすぎてしまう。

(解答累計)

1	3.7
2	78.5
3	9.8
4	8.1

(考察)

登場人物の気持ちの変化を文章の叙述から読み取る問題である。最初は、オオミズアオを捕まえて大輝を驚かせようと考えていた心愛だったが、オオミズアオの命の短さを語る大輝の話聞いて、「きびしい運命」に驚いている。正答は、②の「とるのをやめようと思った」である。「自分だけのものにした」「自分の手をつかまえない」「何も知りたくない」は、「きびしい運命」を知った心愛の行動としてふさわしくない。

○【大問5－(2)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
説明文の内容を読み取る	叙述をもとに段落相互の関係を捉えている	70	64.2	66.6	67.6

5 次の記事を読んで、下の問題に答えましょう。
 (1) (6)は段落の番号を表します。

① 夏の夜、街灯や自動はん売機の明かりに群がっている虫を見ることがあります。夜に部屋のまどを開けっぱなしにしていると、電灯を目がけてつっこんでくる虫もいます。自分から進んで、あぶない所に入っただけをわき受けることとなえて、「飛んで火に入る夏の虫」ということわざもあるくらいです。

② 夜、明かりに向かってくる虫は、ガ、コガネムシ、クワガタムシ、カブトムシなどです。ほとんどが夕方から夜にかけて活動する夜行性のこん虫です。そして、光の周りをぐるぐる回ったり、電灯に何度もぶつかったりします。

③ なぜ虫たちは、明かりに向かって飛んできたり、回ったりするのでしょうか。暗くなってから活動する虫たちなのに、明るい所が好きなのでしょうか。いいえ、そうではありません。

④ 夜行性の虫は、月の光に対して、いつも同じ角度で飛ぶことで、高さや方向のバランスをとっていると考えられています。つまり、月明かりが、自分の位置を知るための目印になっているのです。

⑤ ところが、虫たちは、人間が作った明かりを、月と勘違いしてしまっているのです。月は、地球から遠くはなれていますから、自分が動いても、月のある方向は変わりません。だから、月の光を目印にして、高さや方向のバランスをとることができません。

⑥ しかし、人間が作った光は、とても近くにあります。虫たちはまっすぐ飛んでいるつもりなのですが、いつも同じ角度で飛ぼうとするため、明かりの周りをぐるぐる回ってしまったり、だんだん明かりに近づきすぎてしまうのです。

(山畑泰子 「なぜ? どうして? もっと 科学のお話 4年生より」)

① 「街灯や自動はん売機の明かりに群がっている虫」は、主にどのような虫ですか。次から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 昼間の明るい所が好きなこん虫。
 2 あぶない所しか行かないこん虫。
 3 朝から夕方にかけて活動するこん虫。
 4 夕方から夜にかけて活動するこん虫。

② 上の文章の段落どうしの関係について、正しく説明しているものを次から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 ①段落で筆者の考えをしめし、そのように考える理由を、②段落からあとで取り上げている。
 2 ②段落までの内よりについて、それは反対の例も見られることを、③段落からあとで述べている。
 3 ③段落でしめしたきもんに、なぜか、④段落からあとで説明している。
 4 ④段落までのべた、事実と筆者の考えについて、⑤段落からあとで新たな考えをしめしている。

③ 上の文章を読んだ大田さんは、虫の飛び方について読み取ったことを次のようにまとめました。
 アは七字、イは一字でぬき出して書きましよう。

虫の飛び方	きより	月	人間が作った明かり
高きや方向のバランスをとることができる。	地球から遠くはなれている。	とも近くにある。	明かりを「イ」とかんちがいでして、明かりを目印にして飛ぶ。
高きや方向のバランスをとることができる。	地球から遠くはなれている。	とも近くにある。	明かりの周りをぐるぐる回ったり、明かりに近づきすぎたりする。

(解答累計)

(解答累計)	
1	9.8
2	14.2
3	64.2
4	11

(考察)

6つの内容段落相互の関係を捉える問題である。正答は、3段落で問題提起をして、4段落以降でその問題に対する説明をしているので③である。①は、1段落で筆者の考えを示していない。②は、2段落までの内容と反対の考えを述べているわけではないが、電灯に集まることと月に集まることが反対と捉えたため誤答が多くなっているものとする。④は、「ところが」の接続語から新たな考えを示すと捉え選んだものとする。各段落の要点をまとめたり、接続語に着目したり、文章構成図を作るなどしたりして、段落相互の関係を捉えることが必要である。

○全体の結果から

「国語の勉強が好きですか」の問いに、昨年度は、全国平均並みの59.9%と一昨年より12%近く上がった。しかし、今年度は、昨年よりも15%低く半数を割り、44.9%の児童しか肯定的な回答となっていない。これは全国でも言えることで、国語が好きではないと考える児童が増えている。「文章を書く」では、指定された長さで文章を書いている(+13.5)、段落の役割を理解し、2段落構成で文章を書いている(+26.4)、内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書いている(+21.0)、内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書いている(+21.1)、と高く、白杵市の児童が得意としている。

連用修飾語の問題は、昨年度は正答率が26.6%、今年度も23.2%と正答率が低い。問題文をよく読み、問われていることに対して答えることが大切である。

領域の「読むこと」は目標値は上回っているが、全国の正答率より1.9下回っている。文章の内容を具体的に想像するには、複数の叙述を結び付けて読み、読み取ったことを基にして、総合的に判断する必要性に気づかせることが重要である。指導に当たっては、「登場人物の行動や会話、様子などを結びつけることで人物像(性格や考え方など)を捉えさせる」「登場人物や場面設定など、個々の叙述をもとに、物語の全体像を具体的にイメージさせる」などの指導が考えられる。(大分県義務教育課資料より)

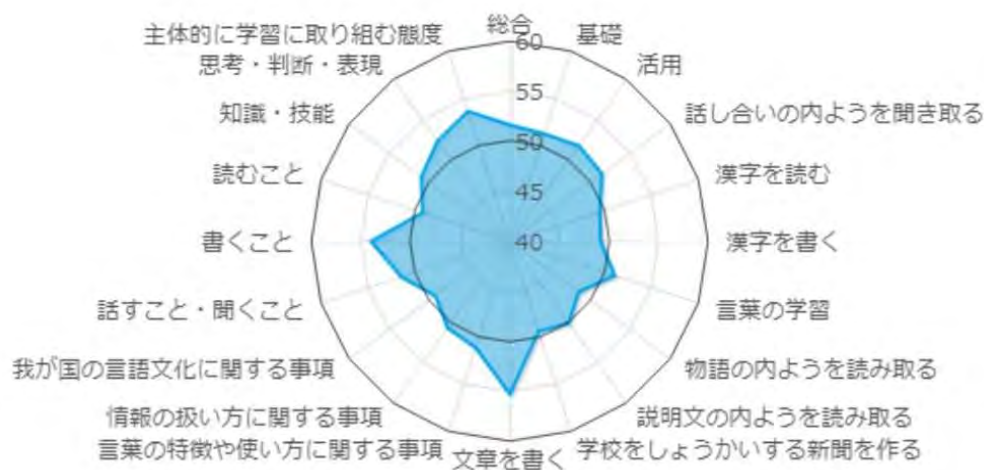
「漢字を正しく書く」は、ここ数年目標値に到達しなかった内容である。漢字の反復練習は、着実な効果が期待できるが、やみくもに繰り返して書くだけでは、単調で飽きやすく、また、頭を働かせずに機械的に取り組んでいるとなかなか覚えられない場合が少なくない。

○意味を理解しながら学習する。「記号」としてでなく、意味を確認してから覚える。

○漢字を構成する「部首」の意味を理解し、「なぜそのような意味かを」理解しながら覚える。

○文章の中にある漢字にふれ漢字の習得を行う。読書を通して漢字を学び、分からない漢字があれば、読みや意味を確認したり、その字をノートに練習する。

○進出漢字の練習が普段の家庭学習になるため、授業のノートや日記等で既習漢字を使った文章を書く。書けない場合は、調べたり、赤鉛筆で書き込んでいき、既習漢字を日常的に覚えていく。



【小学校国語 授業改善・指導のポイント】（県の資料より）

○主体的に取り組むようになる課題

- ・他教科等での取組を視野に入れる
- ・普段から子どもの生活を確認できる手段を教室に取り入れておく
- ・子どもに任せる

○適切な時間に評価の場面を設定

- ・学習評価の位置づけを考える
- ・螺旋的・反復的な年間指導計画
- ・学習活動の特徴を意識した学習展開
- ・学習評価をするのは教師だけではない

○試行錯誤する場面の確保

- ・学習集団の育成
- ・一人一台端末の効果的な活用

○時代の変化に対応した更新を

- ・知識伝達・正解主義からの脱却
- ・資質・能力の育成へ

○効果的な研修のあり方

- ・個別の教材研究は当然大切です→さらに、指導事項から単元を考える意識へ
- ・校内研究授業等大切に→単元全体の本時（1時間）であると捉える意識へ

令和5年度 大分県学力定着状況調査 小学校 算数

1. 結果の概要

	合計	知識	活用
臼杵市（偏差値）	53.4	53.2	53.2
大分県（偏差値）	52.1	52	51.9

2. 学びの成果が見られる枝間（目標値に対して+10ポイント以上）

- 【大問1ー(1)】十進位取りについて理解している。（+10.9）
- 【大問5】概数に対応する数の範囲を理解している（+11）
- 【大問7ー(1)】比較量を求める乗法の文章問題を表した図を選ぶことができる。（+14.1）
- 【大問8】2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて比べている。（+18.8）
- 【大問9ー(1)】四則の混じった式の計算順序を理解している。（+15.1）
- 【大問13】直方体のある辺に変更な辺を理解している。（+12.4）
- 【大問14】ひし形の作図ができる。（+13.3）

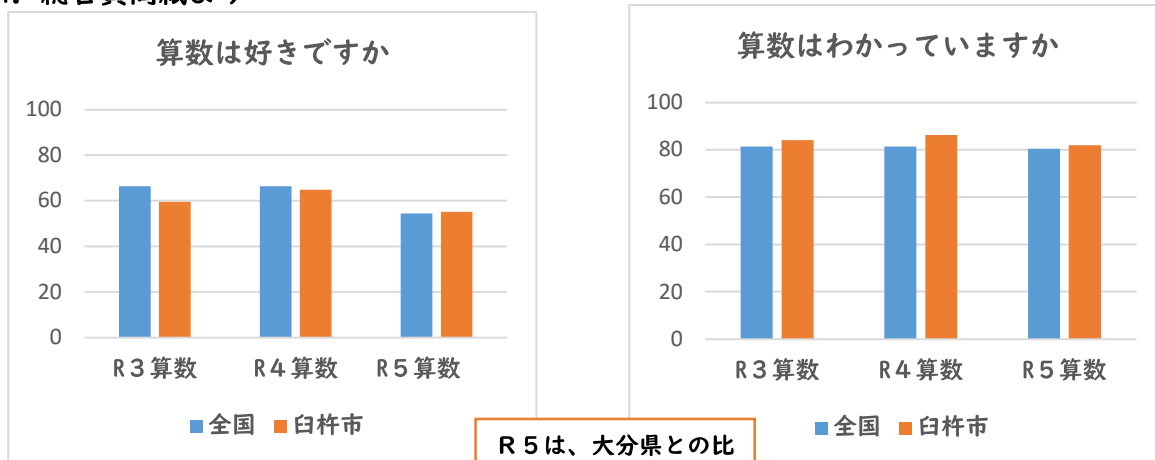
3. ①課題の見られる枝間（目標値に対して-5ポイント以上）

- 【大問12】四角形の対角線の性質を理解している。（-9.0）
- 【大問16ー(1)】折れ線グラフを読み取ることができる（-5.4）

②課題の見られる枝間（正答率が50%以下の問題）

- 【大問11】はがきのおよその面積を選んでいる。（正答率44.1）
- 【大問18ー(3)】切り捨ててけいさんした結果が目的に合う理由を説明している。（正答率41.2）

4. 総合質問紙より



5. 調査結果をふまえた授業改善のポイント

○【大問11】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
面積	はがきのおよその面積を理解している	40	44.1	40.8	46.8

- 11 ひまりさんは、はがき1まいの面積がどれくらいなのか気になりました。



ひまり

はがきのたてと横のおよその長さを考えると、およその面積がわかるね。

はがき1まいのおよその面積はどれですか。答えは1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 およそ15cm²
- 2 およそ150cm²
- 3 およそ1500cm²
- 4 およそ150m²

(解答累計)

1	50.2
2	44.1
3	2.9
4	2.9

(考察)

身近にあるもののおよその面積を求める問題。毎年、この問題を苦手とする傾向がある。(R2年度の切手の面積の正答率は64.9、R3年度の1000円札の面積の正答率は33、R4年度の教室の面積の正答率は43.9) はがき1枚の面積の正答は、②のおよそ150cm²である。①を選択した誤答が多いが、15cm²はクレジットカードよりも小さい面積である。1cm²の大きさを十分にイメージできていないためと思われる。またはがきは10cm×15cmだとおおよその大きさをイメージすることができなかったためと思われる。また、はがきは3cm×5cmの大きさではないことはイメージできるであろう。おおよその数で置き換えて考えることができていないと考える。

○【大問12】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
いろいろな形	四角形の対角線の性質を理解している	60	51.4	51	56.6

- 12 台形、平行四辺形、ひし形、正方形、長方形について、2本の対角線がそれぞれの真ん中の点で交わる四角形を全部選んでいるものはどれですか。答えは1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 ひし形、正方形
- 2 正方形、長方形
- 3 台形、平行四辺形、ひし形
- 4 平行四辺形、ひし形、正方形、長方形

(解答累計)

1	21.2
2	13.6
3	12
4	51

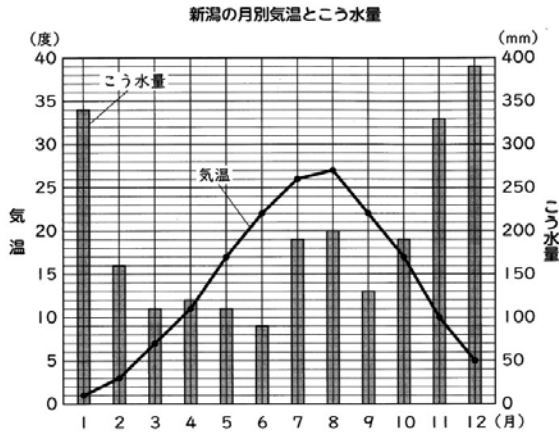
(考察)

対角線がそれぞれの真ん中で交わる四角形を求める問題である。小学校で習う四角形のうち台形以外は真ん中で交わるので、正答は④である。①は辺の長さが等しい四角形、②は対角線の長さが等しい四角形である。平行四辺形も対角線の長さは違うということから、それぞれの真ん中で交わることが理解できていなかったと思われる。

○【大問16 - (1)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
折れ線グラフと表	折れ線グラフを読み取ることができ る。	65	59.6	70.3	65.6

- 16 次のグラフは、ある年の新潟(長岡市)の月別の気温を折れ線グラフで、月別のこう水量をばうグラフで表したものです。(※雨や雪がふった量のことを「こう水量」といいます。)



- (1) 気温の上がり方が一番大きいのは、何月と何月の間ですか。

(解答累計)

正答	59.6
10月と11月(変わり方が一番大きいところを書いている)	22
上記以外の誤答	16.7
無解答	1.6



(考察)

折れ線グラフを読み取る問題である。問題は、「気温の上がり方が一番大きいのは何月と何月の間ですか」である。正答は4月から5月である。誤答が多いのは10月から11月である。一番変化が大きいのは10月から11月であるが、気温は下がっている。問題をしっかりと読み取っていない。また1月から8月、5月から8月などの誤答も多い。1か月の間で読み解くこともしっかり押さえたい。

○【大問18 - (3)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
億と兆・概数の表し方	切り捨てて計算した結果が目的に合う理由を説明している。	35	41.2	36.2	38.7



つむぎ 5000円以上買うと、福引きが1回できるよ。この4つを買うと、5000円以上になるかな。



お姉さん 5000円以上になるかどうかなら、およその金がかくて計算するといいな。

つむぎさんは、合計の金がかくが5000円以上になるかどうかを、次のように考えました。

つむぎさんの考え

合計の金がかくを、次のようにして計算します。

実さいの金がかく	1290	1350	1860	780
およその金がかくの計算	↓	↓	↓	↓
	1200	+ 1300	+ 1800	+ 700 = 5000

合計の金がかくは5000円以上になるので、福引きが1回できます。

- (3) つむぎさんの考えの「およその金がかくの計算」で、合計の金がかくが5000円以上になることがわかります。実さいの金がかくて計算しなくても、5000円以上になることがわかるのはなぜですか。そのわけを、言葉や数を使って書きましょう。

(解答累計)

合計の金額が5000円以下になるわけを正しく説明している	25.4
切り捨てて概数にしたことは書いているが、計算結果については来っていない	16.7
上記以外の誤答	39.6
無解答	19.2



(考察)

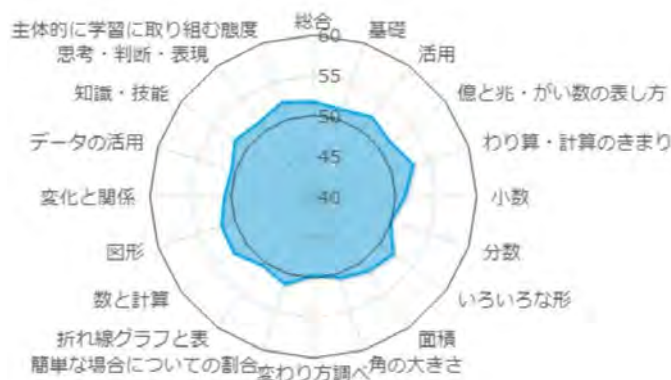
4つの商品の合計が5000円以上になるか、切り捨てをして確かめる問題である。すべての商品を切り捨てて5000円以上になっているので、実際の合計金額はそれ以上なので、5000円以上になるといえる。誤答の中に「四捨五入をする」と書かれたものが多い。四捨五入だけでなく、切り捨てや切り上げを用いることの良さや場面についても指導する必要がある。また、無解答も19.2%と高くなっている。友だちの考えも自分の考えとして一緒に考えていくことも大切である。

○全体の結果から

昨年度と比べ「算数の好きな児童」は9%以上下がり55.1%だった。4年生時の白杵市基礎基本テストでは80%が肯定的な回答だったことを考えると、算数が好きな子が5年になってかなり減少している。アンケートの聞き方の違いや、算数の内容が難しくなったことも考えられるが、原因を追及する必要がある。また、「算数が理解できている児童」は、81.9%の児童が肯定的であり、全国平均よりも高いが4.3%下がっている。

ここ数年おおよその面積を求める問題の正答率が低い。1 cm²、1 m²など同じ1でも単位によって面積が大きく異なることを自分の身の回りの物の中から探し出すとともに、その両者を並べて比較し、大きさの違いを実感を伴って理解させるなど、身近な物と関連を持たせながら捉える必要がある。同じくかさや重さ、体積などでも身近なものでその量の大きさを捉えさせる必要がある。また、日常的に単位を使って量の大きさを表現させる取り組みを行いたい。(コップ水は200ml?200dl?200L?、黒板の横幅は何m?、ノートのはて・よこは何cm等)

慶應義塾大学教授今井睦教授は、小学校では、○いつ使えるのかの直感を伴う「生きた知識」を子どもたちが学べるようにする○問題解決の道筋が分かる直観を育てる○答えが適切かが分かる直観を育てる○学びが楽しい、間違いや失敗は歓迎するべきものというマインドセット(心構え)を育てることが必要だと述べています。(内外教育より)単元計画をたて、この単元で何ができるようになるかを子どもたちに意識させ、見通しをもって学習に臨むことや、身の回りや日常生活と関連した課題を解決するように授業改善を行ってきたい。



【小学校算数 授業改善・指導のポイント】(県の資料より)

(単元づくり)

単元を通して育成をめざす資質・能力を明らかにして、単元を構成する。その際、児童の実態や単元の系統性を確認する。

①児童の実態及び単元の系統性の把握

- ・レディネステストや各種調査等を基に、児童に実態を把握する。
- ・単元の系統性(当該単元とつながりのある既習の学習内容)を確認する。

②育成をめざす資質・能力を明確にした単元構想

- ・当該単元における、育成をめざす資質・能力を確認する。⇒ゴールの明確化
- ・本時と前時・次時との関連を意識し、単元の展開をデザインする。

③評価計画の作成

- ・児童の学習状況を的確に把握するための評価計画を作成する。

(授業づくり)

○問題場面を図や数直線と関連付けて考えさせる等、児童が数量の関係を的確に捉え立式できる手立てを取り入れた活動を行う。

○「考えるための技法」や「思考ツール」等を用いて、児童に情報を読み取るための視点を持たせた上で、意見を出し合ったり、説明し合ったりする活動を授業に位置付ける。

○「説明の基本形」等を利用し、児童が筋道を立てて説明する授業を行う中で、論理的な説明の仕組みに慣れさせる。

令和5年度 大分県学力定着状況調査 小学校 理科

1. 結果の概要

	合計	知識	活用
臼杵市 (偏差値)	52.1	51.5	52
大分県 (偏差値)	51.3	50.5	51

2. 学びの成果が見られる枝間 (目標値に対して+10ポイント以上)

- 【大問1-(2)】グラフを読み取り、ヘチマのくきののびと気温の変化の関係を指摘できる。(+10.1)
- 【大問2-(1)】気温のはかり方を身に付けている。(+11.8)
- 【大問3-(1)】関節と筋肉の様子について理解している。(+22.3)
- 【大問7-(1)】実験の結果をもとに、粒の大きさとみずのしみこみやすさの関係を指摘できる。(+11.0)
- 【大問8-(1)②】水の沸騰したときのようすについて、グラフをもとに推測できる。(+10.2)
- 【大問11-(1)】電流について理解している。(+10.6)

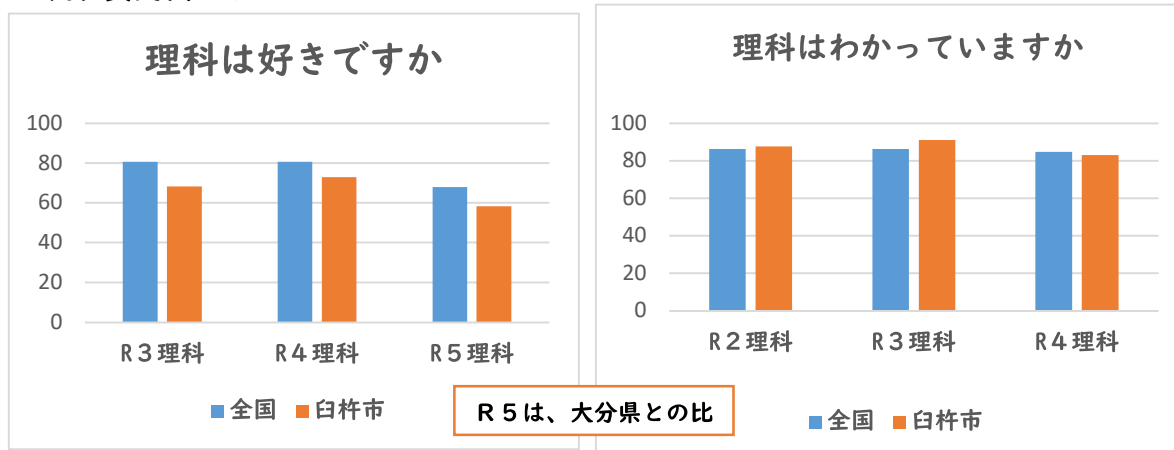
3. ①課題の見られる枝間 (目標値に対して-5ポイント以上)

- 【大問1-(4)】ナナホシテントウとオオカマキリの1年間の様子を理解している。(-15.6)
- 【大問6-(1)②】温度による空気の体積の変わり方を確かめる実験において、実験からわかることを指摘できる(-7.2)
- 【大問8-(2)】水を熱したときの水の姿について理解している。(-10.0)
- 【大問10-(2)】空気の温まり方を理解している。(-7.9)

②課題の見られる枝間 (正答率が50%以下の問題)

- 【大問1-(4)】ナナホシテントウとオオカマキリの1年間の様子を理解している。(49.4)
- 【大問4-(2)】方位磁針の使い方を身に付けている。(41.7)
- 【大問6-(1)②】温度による空気の体積の変わり方を確かめる実験において、実験からわかることを指摘できる(47.8)
- 【大問8-(2)】水を熱したときの水の姿について理解している。(30.0)
- 【大問8-(3)】冬に水道管が破裂することがある理由について、水の体積の変わり方をもとに説明できる。(47.0)
- 【大問10-(3)】水の温まり方について、予想が正しいと言えるための結果と、正しい実験の結果を推測できる。(43.7)
- 【大問11-(3)】直列つなぎにしたほうがいいと判断した理由を、実験の結果を根拠として説明できる。(27.9)

4. 総合質問紙より



5. 調査結果をふまえた授業改善のポイント

○【大問1-(4)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
1年間の動物の様子	ナナホシテントウとオオカマキリの1年間の様子を理解している。	65	49.4	52.9	67.9

(4) 次の図は、ある季節のナナホシテントウとオオカマキリの様子です。図のようなようすが見られるのは、それぞれどの季節ですか。春・夏・秋・冬から1つ選んで、その季節を書きましょう。



落ち葉の下で過ごす。



たまごからよう虫がかえる。

(解答累計)

正答	49.4
誤答	50.6
無回答	0

(考察)

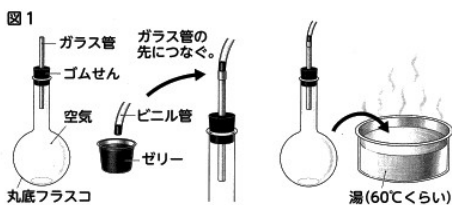
正答は、ナナホシテントウが冬、オオカマキリが春である。誤答としてナナホシテントウが落ち葉から秋、オオカマキリが幼虫がかえることから夏と答えたものと考えられる。カレンダー等に生き物の様子を書くなどしてとらえるとともに、身近な生き物全体の特徴として季節の様子を考へたりする必要があるであろう。

○【大問6-(1)②】

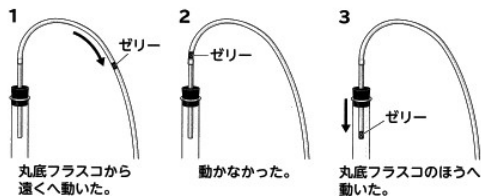
問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
物の体積と温度	温度による空気の体積の変わり方を確かめる実験において、実験からわかることを指摘できる	55	47.8	52.7	57.5

6 物の体積と温度について、次の問題に答えましょう。

(1) 図1のように、丸底フラスコにガラス管のついたゴムせんをして、そこにゼリーをつめたビニル管をつなぎました。丸底フラスコを湯に入れてあたためて、ゼリーの動きを調べました。



① 図1で、丸底フラスコを湯につけたときのゼリーのようすは、どのようになりますか。次の1~3から1つ選んで、その番号を書きましょう。



② この実験でたしかめていることは何ですか。次の1~4から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 あたためたときのゼリーの体積の変わり方。
- 2 あたためたときの空気の体積の変わり方。
- 3 あたためたときの水の体積の変わり方。
- 4 あたためたときの丸底フラスコの体積の変わり方。

6-(1)② (解答累計)

①	32
②	47.8
③	6.9
④	13.4
無回答	0

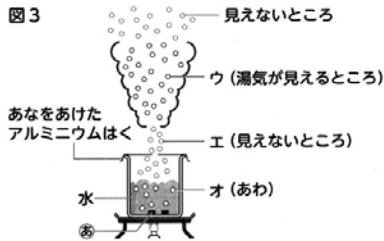
(考察)

実験の結果から言えることを考察する問題である。丸底フラスコを温めたらビニル管のゼリーが遠くへ動くのは、②の「あたためたときの空気の体積の変わり方」が正答である。①の「ゼリーの体積の変わり方」の誤答が多くなっているのは、空気があたためられて膨張したのではなく、ゼリーが移動したことでゼリーがあたためられたからだと思われる。実験の結果だけでなく、その結果から何が言えるのか、全員が考察できるように授業改善を行う必要がある。

○【大問8－(2)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
水のすがた	水を熱したときの水の姿について理解している。	40	30	41.1	39.5

(2) 図3は、水を熱してふっとうしているときの様子です。ウ～オは、それぞれ固体、えき体、気体のうち、どれですか。あとの1～4から正しい組み合わせを1つ選んで、その番号を書きましょう。



	ウ	エ	オ
1	気体	気体	えき体
2	えき体	固体	気体
3	気体	えき体	気体
4	えき体	気体	気体

8－(2) (解答累計)	
①	37.7
②	15.8
③	15.4
④	30
無回答	0.4

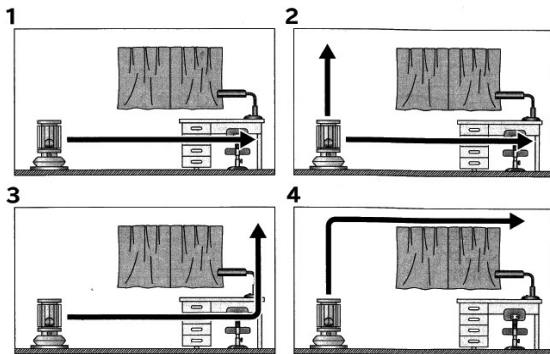
(考察)

水を熱したときの水の姿の変化について問う問題である。よく間違える問題である。正答はウが液体、エが気体、オが気体なので④である。誤答で①が多いのは水の変化はピーカーがある下から変わるので、ウエオの順番を上下間違えて回答した児童もいたのではないかとと思われる。よく記号を確かめる必要がある。見える部分が液体の湯気、見えない部分が気体の水蒸気であることなど水の変化を図や絵にして表し理解するなどしていきたい。

○【大問10－(2)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
物のあたたまり方	空気の温まり方を理解している。	80	72.1	61.1	80.5

(2) 次の図の1～4のうち、部屋をストーブであたためたときの空気の動きを正しく表しているものはどれですか。1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。



10－(2) (解答累計)	
①	3.6
②	3.6
③	19.4
④	72.1
無回答	1.2

(考察)

空気のあたたまり方を問う問題である。空気はあたためられると上昇し全体が温まっていく。③の誤答が多いのは、あたためられると上昇することは理解できているが、まずは水平に温まった後に上昇すると考えている。実験結果から考察する際に、身近な生活場面を想起しながら、実感することも大切にしたい。

○【大問11-(3)】

問題の内容	出題のねらい	目標値	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
電気のはたらき	直列つなぎにしたほうがいと判断した理由を、実験の結果を根拠として説明できる。	30	27.9	25.8	23.7

(3) 2人は、紙コップの上下する動きをさらに速くするために、かん電池の数をふやせばよいと考えました。そこで、2人は、かん電池のつなぎ方と回路に流れる電気の大きさについて調べるために、次のような実験をしました。

【実験】

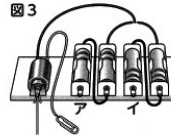
① 図2のような回路を作り、豆電球の明るさを調べた。

② 図2の回路で、かん電池を2こ、3こふやして、つなぎ方をかえて豆電球の明るさを調べた。

【結果】

	かん電池1こ	かん電池2こ	かん電池3こ
直列つなぎ		1このときよりも明るくなった。	2このときよりも明るくなった。
へい列つなぎ		1このときと変わらなかった。	1このときと変わらなかった。

しほさんは、実験の結果から、かん電池を図3のようにつなげば、紙コップの上下する動きを速くできると考えました。しほさんが、そのように考えたのはなぜだと考えられますか。実験の結果にふれて、かんたんに書きましょう。



(解答累計)

乾電池のつなぎなおしたおもちゃについて、実験の結果と合わせて説明している	7.3
実験の結果についてのみ説明している	20.6
直列つなぎについて説明しているが、実験の結果を説明していない	15.4
上記以外の回答	42.9
無解答	13.8

(考察)

豆電球の実験結果をもとに、モーターの速さも直列つなぎにすれば早くできることを説明する問題である。全問題の中で、一番正答率が低く、無解答率が高かった問題である。正答は、「実験の結果から、直列つなぎでは、乾電池を増やすごとに、豆電球の明かりが明るくなったため、直列つなぎにすればモーターの動きも早くなると考えられるから」である。誤答では、「直列つなぎをすれば速くなる」など豆電球の実験に触れていないものや、「乾電池を増やせば速くなる」など直列つなぎに触れていないものが多い。1つの実験結果から得られた知識は、他の実験でも同じことがいえることなど、実験の考察後に触れるなど授業に取り入れていきたい。

○全体の結果から

昨年度と比べ「理科の好きな児童」は14%以上下がり58.3%だった。4年生時の白杵市基礎基本テストでは86%が肯定的な回答だったことを考えると、理科が好きな子が5年になってかなり減少している。原因を追及する必要がある。また、「理科が理解できている児童」は、83.1%の児童が肯定的であるが、昨年度より8%近く下がっている。理科が好きでないとする児童が増えた影響であろう。児童自身が観察、実験を中心とした探求の過程を通じて課題を解決したり、新たな課題を発見したりする経験を可能な限り増やしていくことが重要であり、このことが理科の面白さを感じたり、理科の有用性を認識したりすることにつながっていくと考えられる。

【問題解決の過程における教師の効果的な指導・支援】(県の資料より)

①問題・課題を見いだす場面…日常生活との関連付けを意識して授業を構想する。

○自然の事象と出合わせ「問い」をもたせる

- ・実物、写真や動画を見せる。 「あれ？」
- ・観察や実験を行う。 「なんで？」
- ・対象物等を自由に触れさせる(自由試行) 「どうやったの？」
- ・ものづくりを行う。 など

○「問い」から解決可能な問題・課題を設定する。

- ・「～は…とどのような関係があるのだろうか」のように、実験等において解決可能な問題・課題を設定する。「なぜだろうか？」の問題・課題解決は難しい。

②検証計画の立案の場面

- 既習の実験方法を思い出させる。ヒントとなる実験道具を示す。
- 例「これまでに学んだことを使って調べる方法はないかな？」
- 例「この前の学習では、調べたい条件の日光は、当てるものと当てないものを用意しましたね。今回は、何をどのようにしたらいいかな？」
- 他者に説明する等して、実験方法を改善できるようにする。
- 例「他の班に行って自分たちの考えた実験方法を説明しましょう。」

例「説明を受けた人たちはアドバイスや質問などをしましょう。」
 例「どのようなやり方がいいか話し合い、実験の計画を完成させましょう。」
 ○予想される結果について見通しをもたせる。
 例「この実験をして、どのような結果が出たら、何といえるかな？」

③結果の処理、考察、結論の導出の場面

○実験結果と考察、結論を区別させる。

- ・結果は「事実」、考察は「結果からわかったこと（解釈）」を書く
- ・教師が一方向的に結論をまとめるのはNG。
- ・子ども同士の対話を通して表出した言葉をもとに結論をまとめる。
- ・結論は、課題に対して正対するように表現させる。



○助言や問いかけにより視点を明確にする。

・教師の助言や問いかけによって視点を明確にし、自分の考えを表現できるように支援する。

- 「何がどのように違うの？」（比較）
- 「何が関係しているの？」（関係づけ）
- 「どのようなことが言えるの？」（結論）

※内容のまとめりや単元の最後には、学習したことを基に、もう一度日常生活に目を向けさせる。

学 年	育成したい問題解決の力	育成のための方法	頭の使い方
3年	差異点や共通点を基に問題を見出す	複数の自然の事物・現象を比較する	比較（比べる）
4年	既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する	自然の事物・現象同士を関係づけたり、既習の内容や生活経験と関係づけたりする	関係づける（つなげる）
5年	予想や仮説を基に、解決の方法を発想する	自然の事物・現象に影響を与えると考える要因を予想し、どの要因が影響を与えるか調べる時に、これらの条件を制御するといった考え方をを用いる	条件制御（変える・そろえる）
6年	妥当な考えを作り出す	より妥当な考えをつくりだすことは、自分がすでに持っている考えを検討し、より科学的なものに変容させる。自然の事物・現象を多面的に考える	多面的に（いろいろな見方で）



「今、求められている力」を培うための理科授業のバージョンアップに向けて
これからの白桦の子どもたちの「理科の授業」に必要な10の活動(日ごろの授業に位置づけましょう)

【理科の出題傾向からみられる「今求められている力」を培う授業改善を進める指針】
「思考・判断・表現」を行う活動を、下記のように、問題解決過程に沿って確実に位置づけます。

- 1 日常の事象から「不思議なこと」「確かめたいこと」「明らかにしたいこと」と「その事象のしくみ」についての「予想」や「仮説」をもつ活動
- 2 「予想」や「仮説」を確かめる実験・観察について、「何を」「どのように使って」「どんな手順で」「どこまで進めれば」結果が得られるのかについて、実験方法を構想する活動
- 3 上記の実験・観察についての不備の有無について判断し、その根拠と不備の修正について考え、実験方法を明確にする活動→「課題」設定(見通し・仮説・実験方法・手順の明確化)
- 4 「予想」「仮説」について、「なぜそう考えられるのか」についての自分なりの判断やその根拠を、日常の経験や知識をもとにして説明する活動
- 5 結果の予想・仮説と実験内容をつないで、「予想・仮説が正しければどのような結果が出るのか」について、「予想・仮説」を検証するための実験内容と見通しをつないで表現する活動
- 6 「予想・仮説」を検証するための実験・観察を、手順よく進めるとともに、的確かつ正確に記録したり、結果をまとめたりする活動
- 7 実験・観察等の結果(記録)をもとに、「言えること」「わかったこと」を、事実を根拠として、分かりやすく表現したり、他児の説明の意図を捉えてその表現を代弁・補完したりする活動
- 8 実験結果が「予想とは違った」場合の仮説の修正や言えそうなことを表現する場(他児の表現の意図を受け止めて説明を間接される活動も重要)
- 9 実験の結果から、その理由として「言えること」「言えないこと」を区別する活動

日々の授業に位置づけたい教師の問いかけ→「思考・判断・表現」を繰り返す問い

「○○が△△になるのは、どうしてだと思いますか」「どんなしくみになっていると考えますか」

「どんな実験・観察をすれば確かめられますか」「どんな結果が出ると思いますか」

「どんな結果が出れば、予想が確かめられたと言えますか」

「その実験で、本当に確かめたいことがはっきりされますか、なぜですか」

「実験の結果からどんなことが言えそうですか」「それはどの事実(結果)をもとに言えますか」

「○○さんの考えは正しいと言えますか」「○○さんの言いたいことを代わりに説明しましょう」

中学校・臼杵プロジェクト会議での教科別分析

国語

担当： 西中（ 中川 幸恵 ）

	教科全体	知識	活用
偏差値 (全国平均：50)	52.5 (県 51.8)	52.3 (県 51.8)	52.3 (県 51.5)
正答率	67.9 (県 66.5)	*1 (設問中の正答率の割合)	
達成率	72.8 (県 72.5)	(目標値以上の正答率に達した生徒の割合)	

	数値が高い	数値が低い
問題	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの内容を聞き取る 69.0(目標値 66.7) 漢字を読む 93.4(目標値 85.0) 漢字を書く 57.8(目標値 51.7) 文法・語句に関する事項 68.5(目標値 66.3) 説明的な文章の内容を読み取る 55.3(目標値 51.7) 学術的な文章の内容を読み取る 65.3(目標値 63.3) 報告する文章を書く 56.7(目標値 50.0) 文章を書く 75.0(目標値 56.3) 	なし
領域	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の特徴や使い方に関する事項 70.3(目標値 65.6) 情報の扱い方に関する事項 45.0(目標値 40.0) 我が国の言語文化に関する事項 95.1(目標値 85.0) 話すこと・聞くこと 69.0(目標値 66.7) 書くこと 67.1(目標値 53.6) 読むこと 60.3(目標値 57.5) 	なし
観点	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能 66.4(目標値 61.2) 思考・判断・表現 64.9(目標値 57.5) 主体的に学習に取り組む態度 61.6(目標値 49.0) 	なし
フォローアップ すること	12 文節の関係について理解している	20.8(目標値 40.0) *2

【概要】

○*1より、臼杵市の平均正答率(県+1.4 全国+4.9)は目標値(+6.6)を上回っている。達成率も県・全国(県+0.3)を上回っている。

○臼杵市としては全26問中23問が目標値を上回っており、知識・技能、思考・判断・表現ともに力がついていると考えられる。(目標値とほぼ同等⇐2問、目標値を下回る▼1問)

○記述問題全6問の無回答率が県と比較して低く、解答しようとする意欲が見られる。

○正答率度数分布グラフにおいてはほぼ正規分布である。

△「情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して内容を解釈している」は完全正答反応率が44.9%(県46.3)と低く、つまずきが見られる。山極寿一の説明的文章から、筆者が文章中で述べていることを友達に説明するためにまとめた図の空欄にあてはまる言葉を抜き出す問題だった。結論部分にあるキーワードを探すことはできていたが、本論部分にある類似の意味のキーワードを探すことができなかった誤答が多かった。文章中、同意で使われている言葉、対になる意味で使われている言葉などを意識しながら読むことが苦手であると考えられる。

△*2より、「文節の関係について理解している」は、文節と単語を区別できていないことによる誤答が多かった。

【臼教研国語部会で確認すること】

●学校ごとにつまずきがある内容が違うので、自校できちんと分析し、授業や定期テストで定着を図る。

●「小学校で学習した漢字を正しく書く」は正答率が伸びている。引き続き、漢字ノートなど学習する機会を設けるとともに、各ブロックの小中一体教育で結果を報告し、指導の徹底を依頼する。

●「説明的な文章の内容を読み取る」の「情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈している」は他教科にも影響する内容である。読み方を教えるとともに、読み慣れる学習を積み重ねる必要もある。2年[B書くこと]の指導事項ウ「情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと」の学習と関連を図る。本文とグラフや資料などを関連させて書く場面を設定したり、書いた文章を互いに読み合い交流したりする活動を通して、根拠を明確にして書く力を身につけることを指導する。

中学校・臼杵プロジェクト会議での教科別分析 **社会**

担当： 西中（首藤 剛）
 学校教育課（玉ノ井智則）

	教科全体	知識	活用
偏差値 (全国平均：50)	51.5 (県 50.9)	51.7 (県 51.2)	50.6 (県 50.0)
正答率	53.7 (県 52.6)	(設問中の正答率の割合)	
達成率	65.3 (県 62.6)	(目標値以上の正答率に達した生徒の割合)	

	数値が高い	数値が低い
問題	<ul style="list-style-type: none"> ・領海・排他的経済水域の面積と国土の面積について、資料をもとに考察 46.4(目標値40.0)※1 ・乾燥した地域に住む人々の暮らしについて理解 69.8(目標値60.0) ・世界の主な宗教についての理解 66.1(目標値60.0) ・寒い地域に住む人々の暮らしについて、複数の資料をもとに考察 89.4(目標値80.0)※1 ・中国が抱える人口問題について、複数の資料をもとに考察 72.7(目標値65.0)※1 ・アジア州・北アメリカ州でさかんなICT関連産業についての理解 85.7(目標値70.0) ・浄土信仰の広まりについての理解 84.9(目標値65.0) ・御成敗式目を定めた目的について、資料をもとに考察し、表現 45.3(目標値40.0)※1 	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ州・南アメリカ州の産業の特色について、複数の資料をもとに考察 41.6(目標値50.0)※2 ・大和政権による統一の様子について、資料を読み取っている。 73.5(目標値80.0)※2 ・中世の日本の時代区分の意義や意味についての考察 42.9(目標値50.0) ・応仁の乱後の社会的な変動について、資料をもとに考察している。 34.3(目標値40.0)※2
領域	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地の人々の生活と環境 74.1(目標値66.3) 	
観点	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能 55.6(目標値52.0) ・思考・判断・表現 51.9(目標値51.0) ・主体的に学習に取り組む態度 48.0(目標値46.1) 	
フォローアップすること	4(5) アフリカ州・南アメリカ州の産業の特色について、複数の資料をもとに判断している。 5(3) 大和政権による統一の様子について、資料を読み取っている。 7(1) 中世の日本の時代区分の意義や意味について考察している。 (4) 応仁の乱後の社会的な変動について、資料をもとに考察している。	

【概要】

- 大半の内容、領域、観点の項目において目標値を上回っていた。社会科部会で取り組んできた「社会について問い続ける力を育成する社会科学習の在り方」の研究成果として、生徒が意欲を持って社会の学習に取り組めたことが要因として考えられる。「社会科が好き」という生徒も県平均より高い。
- ※1より、各学校の授業でICT機器を有効活用し、思考・判断・表現させる取組を日常的に実践していることで、資料をもとに思考する問題の正答率が向上した。
- △臼杵市全体では目標値を全項目で上回っているが、学校ごとの結果を分析すると、学校ごとに課題となる項目がみられる。学校間の差を埋めていくために、どのようなことができるか。
- △※2より、資料をもとに判断したり、学習内容の理解をもとに判断したりする問題の正答率が低い。5(3)では、地理や歴史の知識をバランスよく身につける必要がある。

【臼教研社会科部会で確認すること】

- ・ 普段の授業から、学習して身につけた知識や資料をもとに、思考・判断・表現する機会を常に設けるよう授業を工夫する。
- ・ 学校間や各学校の教科部会で情報交換や資料の共有を行う。
- ・ 各学校ともに、知識の定着率の2極化に留意し、支援が必要な生徒に対する個別学習等の対応が必要。

中学校・臼杵プロジェクト会議での教科別分析 **数学**

担当： 西中（ 秦 美芳 ）

	教科全体	知識	活用
偏差値 (全国平均：50)	53.0 (県 50.9)	53.3 (県 51.0)	51.7 (県 50.4)
正答率	58.8 (県 54.0)	(設問中の正答率の割合)	
達成率	63.7 (県 56.1)	(目標値以上の正答率に達した生徒の割合)	

	数値が高い	数値が低い
問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正の数・負の数 62.3 (目標値 61.0) ・ 文字式 72.1 (目標値 62.5) ・ 1次方程式 56.5 (目標値 55.0) ・ 比例・反比例 50.9 (目標値 44.2) ・ 平面図形 50.2 (目標値 45.0) ・ 空間図形 67.7 (目標値 63.3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ データの分布と傾向 48.2 (目標値 50.0)
領域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数と式 64.1 (目標値 60.0) ・ 図形 63.3 (目標値 58.8) ・ 関数 50.9 (目標値 44.2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ データの活用 48.2 (目標値 50.0)
観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識・技能 65.2 (目標値 59.8) ・ 主体的に学習に取り組む態度 44.2 (目標値 42.3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思考・判断・表現 36.9 (目標値 38.6)
フォローアップすること	<ul style="list-style-type: none"> 1 絶対値と数の大小について理解している。 10 正方形の辺上を動く点を頂点とする三角形の面積の変化の様子を式に表し、yの値からxの値を求めることができる。 18(1) ヒストグラムから階級の幅を読み取ることができる。 	

【概要】

- 「比例・反比例」は、表・式・グラフから相互に読み取り関連付けて考えることができるようになった。
- 昨年度数値の低かった作図は、角の二等分線の性質を理解し、折り目の線を作図できフォローアップができています。
- 基礎基本テストで低かった「説明する力」は、必要な情報を用いて説明でき、力がついてきている。
- △教科評定1と2の生徒が36.3%と多い。
- △数学的な用語の意味や特徴の理解が足りずに、問題文の意図が読み取れていない。
- △与えられた文章題に対して、適切な方程式を立式したり比例の式を作ったりすることも少し低く、無解答の生徒が20%を超えている。

【臼教研数学部会で確認すること】

- ・ 学校別の分析をいかしたフォローアップや授業改善策が必要である。特に、誤答の内容を細かく分析し、校内で共有しながら授業の中でフォローしていく。
- ・ 2年の「データの分布」を学習する際に、再度「データの傾向」について補充をし、1年の内容と関連付けて学習をする。
- ・ 数学的な用語の意味を理解させ、説明する際にもきちんと用語を使って説明させていく。
- ・ 今後も日常生活と関連付けた問題を授業で扱い、授業で説明する場面を増やしていく。
- ・ つまずきの顕著な生徒に対しての手立てを毎時間設定し、個に応じた支援をしていく。

中学校・臼杵プロジェクト会議での教科別分析 **理科**

担当：中学校授業力向上アドバイザー 金子 敦

	教科全体	知識	活用
偏差値 (全国平均：50)	51.3 (県 50.8)	51.6 (県 51.1)	50.2 (県 49.7)
正答率	57.2 (県 56.1)	(設問中の正答率の割合)	
達成率	62.6 (県 59.3)	(目標値以上の正答率に達した生徒の割合)	

	数値が高い	数値が低い
問題	12項目中7項目が目標値を超えている 植物の分類 77.7 (目標値 71.0) 動物の分類 79.0 (目標値 71.7) 身の回りの物質とその性質 67.3 (目標値 65.0) 気体の性質 74.6 (目標値 72.5) 水溶液の性質 61.0 (目標値 53.8) 物質の状態変化 52.0 (目標値 48.3) 地震 55.1 (目標値 52.5)	目標値を超えていない項目は、5項目 光の性質 32.5 (目標値 35.0) 音の性質 62.8 (目標値 65.0) 力の性質 48.6 (目標値 50.0) 火山 26.6 (目標値 35.0) 地層 34.1 (目標値 36.7)
領域	粒子 62.2 (目標値 57.7) 生命 78.2 (目標値 71.3)	エネルギー 46.1 (目標値 48.1) 地球 38.0 (目標値 40.7)
観点	知識・技能 63.5 (目標値 58.8)	思考・判断・表現 51.6 (目標値 51.9) 主体的に学習に取り組む態度 42.3 (目標値 45.0)
フォローアップすること	8(1)音さの間に板があるときとないときの音さの鳴り方のちがいを推測できる。 10(2)モデル実験における、条件のちがいが何を意味しているかを解釈し、それを説明できる。 12(3)ピンホールカメラの穴を広げると、像がどのように変化するかを推測できる。 13(2)石灰岩とチャートの特徴を理解し、区別する方法を説明できる。	

【概要】

- 観点別正答率では、知識・技能の項目のみ、目標値、県正答率、全国正答率より上回っている。
- 目標値と1.4ポイントマイナスではあったが、県正答率、全国正答率を上回っている。
- 正答率度数分布を見ると、50%以上60%未満の割合が高く、40%以上50%未満・60%以上70%未満の割合が低くなっている。
- 問題の解答で無回答の数が少なくなっている。
- △領域別正答率では、エネルギー・地球の項目が低くなっている。
- △各校の弱点分野に差がある。
- △解答形式では記述が目標値に達していない。

【臼教研理科部会で確認すること】

- ・正答率別人数の下位層の引き上げはもちろんだが、上位層、中位層を伸ばすため、授業でアウトプットする活動や、単元テスト・定期テストで言語活動・言語表現などを取り入れる。
- ・記述問題に対応する為に、知識・技能を活用して思考・判断し重要用語を使って文章を書くことや、発表するなど表現する活動を授業に取り入れる。
- ・3学期期末テスト後の内容（地球）について再度単元テストや実力考査で出題したり、4月はじめの授業や学習課題としてドリルを行ったりする。
- ・各校の弱点分野に差があるので、理科データベースを活用して、各校の実態にあわせて習熟に応じた課題をテスト期間中や週末課題として出題する。

中学校・臼杵プロジェクト会議での教科別分析 **英語**

担当： 西中（ 佐々木真也 ）

	教科全体	知識	活用
偏差値 (全国平均：50)	51.2 (県 50.4)	51.3 (県 50.4)	50.7 (県 50.4)
正答率	46.9 (県 45.4)	(設問中の正答率の割合)	
達成率	51.2 (県 48.8)	(目標値以上の正答率に達した生徒の割合)	

	数値が高い	数値が低い
問題	リスニング（内容理解） 80.4 (県 78.2) リスニング（対話文の応答） 37.7 (県 33.5) 語形・語法の知識・理解 49.5 (県 47.6) 長文の読み取り（概要） 40.1 (県 39.6) 単語の並びかえによる英作文 42.3 (県 41.3) 場面に応じて書く英作文 39.6 (県 35.8) 情報に基づいて書く英作文 38.6 (県 34.9) 3文以上の英作文 28.2 (県 25.6)	リスニング（様々な英文の聞き取り） 56.3 (県 58.4.) 語彙の知識・理解 72.8 (県 73.3) さまざまな英文の読み取り 44.5 (県 45.2) * 3
領域	聞くこと 55.9 (県 53.9) 読むこと 48.7 (県 48.3) 書くこと 36.4 (県 33.5) * 2	
観点	知識・技能 54.7 (県 53.1) 思考・判断・表現 35.1 (県 33.5) 主体的に学習に取り組む態度 21.8 (県 19.4) * 1	
フォローアップすること	4 日常的な話題について聞き、要点を捉えることができる。 (県-3.0) 6 (2) ①対話文の情報を読み取り、その内容を理解することができる。 (県-2.5) 8 (1) メールを読み、代名詞 It の内容を理解することができる (県-1.6) (3) メールを読み、その内容を理解することができる。 (県-3.3)	

【概要】

- 全体としては、平均正答率が46.9%で、県平均正答率を1.5ポイント上回っている。
- すべての観点が県平均正答率を上回っているが、上回り方が顕著なのは「主体的に学習に取り組む態度」であり、平均正答率が21.8%で県平均正答率を2.4ポイント上回っている。* 1
- すべての領域で県平均正答率を上回っているが、顕著なのは「書くこと」で、平均正答率が36.4%であり、県平均正答率を2.9ポイント上回っている。* 2
- △「聞くこと」について、「さまざまな英文の聞き取り」問題で2問中2問が県平均を下回っている。
- △「読むこと」について、「読み取り」の問題で8問中5問が県平均を下回っている。* 3

【臼教研英語部会で確認すること】

- ・おおむね県平均を越えている。
- ・「聞くこと」に課題がある。ただ単純に「聞く」回数を増やすというのではなく、最初に聞く目的を明確にしたり、事前に設問を提示したりしてから必要な情報を聴き取らせるという機会を増やしたい。また、デジタル教科書の音声聴きながら音読練習をさせるなど、自然な速度の英語の音声に慣れさせたい。
- ・「長文の読み取り」に課題がある。タイトルを隠してから長文を読ませ、何について書かれた文であるか答えさせるなど、長文の概要をつかませる訓練を重ねたい。また、USE Readでは、の事実発問に加え、推論発問をし、テキスト上には直接示されていない内容を推測させる場面を多く作りたい。